

(2) 総合評価シート（様式）

指定管理者制度導入施設の管理運営状況総合評価シート（令和6年度）

施設名	吹田市立内本町コミュニティセンター	所管部室課名	市民部市民自治推進室
所在地	吹田市内本町2-2-12	設置年月日	平成8年6月12日

1 施設の概要

(1)設置目的	文化学習活動、ボランティア活動等市民の多様な地域活動の用に供し、地域における情報の交流を促すとともに、世代を超えた市民の連帯を深め、潤いのある豊かな地域社会の形成に寄与する。		
(2)規模、開館日等	【規模】 (敷地面積)1,355.68㎡ (延床面積)2,233.62㎡ (貸室名称) 会議室2室、和室2室、 多目的ホール、音楽室、創作室、料理実習室	【開館日等】 (休館日)12月29日から1月3日、施設の点検日 (開館時間)午前9時から午後10時	

2 指定管理者の概要

(1)指定管理者	吹田市JR以南コミュニティ協議会					
(2)指定期間	令和3年(2021年)4月1日～令和8年(2026年)3月31日(5年間)					
(3)選定方法	非公募					
(4)指定管理者 が行う業務内 容	施設の管理運営業務					
(5)指定管理者 の収支			令和5年度		令和6年度	
			計画	実施結果	計画	実施結果
	収 入	指定管理料 又は利用料金 (円)	21,333,552	20,778,057	22,109,575	21,000,070
		自主事業 (円)	3,638,000	3,328,300	3,718,000	3,546,850
		その他 (円)				
	支 出	管理経費 (円)	21,333,552	20,778,057	22,109,575	21,000,070
		自主事業 (円)	3,638,000	3,328,300	3,718,000	3,546,850
		その他 (円)				
	収支差額 (円)		0	0	0	0

3 成果指標（活動指標）

成果指標（活動指標）		令和5年度		令和6年度	
		計画	実施結果	計画	実施結果
1	利用件数	-	4,588件	4,600件	4,586件
2	稼働率	-	49.10%	49.50%	49.20%
3	利用人数	-	51,862人	52,000人	53,291人
4					
5					
6					
7					
8					

4 利用者ニーズの把握状況

(1)把握方法	・利用者アンケートの実施 ・窓口での利用者との対話
(2)把握結果	利用者アンケートでは、おおむね「満足」との評価結果を得ております。 主なご意見・ご要望は下記のとおり ・トイレを洋式にして欲しい・部屋での冷暖房の調整がしたい・もう少し安くして欲しい・畳がボロボロで服にゴミが付く・トイレの便座が冷たい
(3)結果を受けての対応状況	トイレの洋式化及び温水便座の設置については、計画的に進めてまいります。 畳をはじめ経年劣化で交換・修繕を必要とするものが多く、安心してご利用いただけるよう、施設の維持管理に努めてまいります。

5 管理運営状況に対する評価

項目	評価
(1)市民の平等な利用の確保	・管理運営の方針は、事業計画書に記載されている事項を遵守されていた。 ・平等利用の確保は、利用者の公平性が確保されていた。
(2)施設の効用の発揮	・設置目的に合致した事業計画に沿った運営を行いながら、サービス向上に努めており、利用者アンケートの満足・やや満足の割合が高い。 ・「0歳から100歳まで」使ってもらえるコミセンをテーマに比較的利用の少ない若年層を呼び込む講座を設置。 ・近隣大学のSDGs研究推進室と連携した学びのある行動により施設での多文化交流を促している。
(3)管理を安定して行う人員、資産その他の経営規模及び能力	・奇数月の臨時休館日にスタッフ会を開催し、消防、接遇（窓口の申請対応）の研修や事務上の課題等を話し合う機会を設けている。 ・緊急時対応マニュアルを作成し、PCでスタッフ全員見られ、年2回消防訓練を実施。 ・市等関係機関への通報ルートも整備されている。
(4)施設の管理経費の縮減	廊下等で不要な電気は消灯している。こまめな消灯やエアコンの温度設定による節電のほか不要な用紙の裏紙を使用することで用紙の使用料削減に努めるなど、光熱水費や事務経費の節減に取り組んでいた。
(5)その他	広報誌「ざ・コミセン」の発行、独自ホームページによる広報活動を行い、ホームページでは空室情報を公開し利用促進を行っている。広報誌にQRコードでホームページにアクセスできるようになっており、WEBによる情報発信も行っている。
(6)総合評価	利用人数は前年度と比較し微減したが、利用件数、稼働率は前年度より増えており、運営体制、運営内容に関しては概ね適正かつ誠実に実施されている。また、アンケート結果からも利用者満足度は高く、管理運営は順調である。イメージキャラクターを作成し、掲示物等に積極的に活用することにより施設のイメージアップと愛着形成を図るなど利用促進が図られている。